

# ¡Hola, amigos!

第052号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のもの順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2004年11月18日 カアディスにてR y N

---

☆今週号のトップヘジャンプ

---



---

**\*今週号\*** No. 052 (2004年・第47週) 11月18日 更新

---

## 「カアデイス市民となる」の巻

10月20日からカアデイスでの生活を始めた私達ですが、その後の二週間は申し込んだ電話開設工事をベンベンと待っていたため、日中は二人一緒には何処にも出られない状態が続いていました。この電話会社の怠慢に関しては、いずれお話する機会があると思いますが、とにかく電話が引けて、やっと自由に出かけられるようになった

のは11月6日のことでした。辛抱強くなったもんです。

そこで8日の月曜日、のびのびになっていた住民登録と居住許可証の住所変更手続きの方法を聞きに出かけました。Nはその日インターフォンの修理人が来る筈だったので留守番。どうせその日は手続きの方法を聞くだけ、実際の手続きには二人で出直し

のつもりです。

まず、住民登録。市役所(ayuntamiento/アユンタミエント)は旧市街のヘソ、サン・ファン・デ・ディオス広場(Plaza San Juan de Dios)に面した洒落た建物です。見かけは大変いいのですが、内部はやはり前世紀の遺物で使いにくいし、段々複雑に

なってゆく市の業務処理に追いつかなくなっているみたいです。

内部はアチコチ部分的に改造したり、新しい設備をつけたりしていますが、外部は見事に昔の姿のまま保存しています。

この写真は広場の中央付近から撮ったもの、突き当たりがその市庁舎です。



この写真を撮った後ろの方は道路を隔ててすぐ客船岸壁です。言うなればシルクセンター前から大棧橋辺りという感じですが、横浜よりずっと街と港が直結しています。

まあ、昔の神戸の感じに近いでしょうか。

いまや日本の港湾都市はどこも沖へ沖へと埋立地が延びて、港が街から遠く離れていってしまいましたね。船の大型化と物流の増大、コンテナ化など運送形態の変化もあって市街地直結型の港は機能なくなってしまいました。味気ないと言えば味気ないことではあります。

いことではあります。

その点ではこの国はどの港を見ても依然として市街地のすぐソコに岸壁があるという具合で、港としては近代化されていないという事ですが、元船乗りの目から見ると極めて好ましい状態が維持されていて、ホッとしてしまうのです。

めて好ましい状態が維持されていて、ホッとしてしまうのです。

さて、いよいよ市庁舎へ乗り込みです。「乗り込み」とは我ながら大げさですが、正直な所そのくらいに構えて、西和・和西辞典の完全装備で出かけたのです。どうせ英語は通じっこありませんからね。

語は通じっこありませんからね。

正面玄関を入るとすぐガードマンが居たので、padrón(パドロン・住民登録)は何処へ行ったら出来るでしょうか？ と聞くと、ハイコッチですよ、とわざわざその部屋の前まで連れて行ってくれました。

前にスペイン版獅子唐ピミエント・パドロン(pimiento padrón)の話をしましたが、憶えてますか？ あのパドロンとスペルは全く一緒ですが向こうは町の名前、このパドロンは住民登録という意味です。獅子唐とは何の関係もありません。

部屋へ入ると窓口の係員は二人で、先客は一人だけ、だから待ち時間なしですぐRの番です。最近マラガ県からカァディスへ引っ越したこと、住民登録をするのは初めてであることなどを説明し手続きの方法を教えてもらいたいと頼みました。担当者は中年の男性でしたが、懇切丁寧に、且つ、明らかにこちらの理解力に配慮しながら説明してくれました。

申請書への記入、提出、それ以外は住居の賃貸契約書、パスポート、居住許可証などの正の提示及び写しの提出で、特に難しいことはなさそうです。

そして私達が外国人だからという事で、手続き上特別な扱いはなさそうでした。記入事項は住所、フル・ネーム、出生地や生年月日などで、普通のスペインの人が身分証明書番号(D N I)を記入する欄に居住許可証番号を記入すればよいのです。

申請書の内容でチョッと意外だったのは、最終学歴を記入する欄があったことです。

次いで国家警察分署へまわりました。ここでも先客はナシ。待ち時間なしですぐ手続きの方法を説明して貰うことが出来ました。マズ聞かれたのは、住民登録を済ませたか？ という事でした。そしてタルヘタ(居住許可証)の住所変更には住民登録済みの証明書が必要、と言われました。

前の住所、ベナルマデナ管轄の国警トレモリノス分署では、最初に居住許可証を申請した時も、一年後にその更新申請をしたときも、住民登録の有無は問われませんでした。しかし考えてみればこれはおかしい話で、確かに当地に住んでいる、という事の証明には住民登録をしているか否かを問うのが至極順当で、カァディス分署の扱いは当たり前のことであると思われます。

多分、全くの多分ですが、トレモリノス分署の管轄地では外国人居住者は数知れず、イチイチ住民登録を強制していたら市役所も警察も事務処理が滞ってしまう、エーイ

端折っちゃえ、という事ではないか、と思います。

それ以外は、お決まりのパスポートと、前住所の居住許可証の提示と写しの提出、新しい許可証用の写真です。では、住民登録ができたならまたいらっしやい、と担当の中年の女性はにこやかです。どうも一向に警察らしくありません。

市役所でも警察でも、私達が必要とする窓口業務は全然忙しくないんですね。それはカァディスという町が地理的にもこれ以上発展する余地がなく、したがって流入人口が少ないからであろうと思われます。忙しくなければ窓口の担当者も自然穏やかになり、ろくすっぽ言葉も通じないへんな外国人にも優しく応対できるのでしょう。

前記のトレモリノス分署は対照的で、何時行っても建物に入りきれない位の外国人が延々と何重も折り返した長蛇の列を作っていました。その大部分はアフリカや南米からの外国人労働者とEUの北の国々からの年金生活者です。

要するに、マラガ市を中心にコスタ・デル・ソル一帯にはEUからの観光客と年金生活者が群がり、それを目当てにサービス業や建築業を中心に色々な分野での労働力が必要になり、外国人労働者が押寄せるという図式でしょう。

窓口の応対も極めて雑で横柄で素っ気ないものでした。一日中素性の知れぬ外国人を相手に事務的に忙殺されればサモアリナンです。自分に余裕がなければヒトに優しくすることは出来ない、の良い見本です。

反対にカァディスは県庁所在地でありながら、産業的には発展性がなく新たな労働力の必要性が乏しいのでしょう。だから流入人口は少なく、外国人労働者の移動も少ないのでしょう。もう一つの窓口、来年暮れに居住許可証の更新をする所へも行って、更新手続きの必要書類を聞いたのですが、ココも先客ゼロ。どの窓口も極めて穏やかな応対でした。

そして、11月10日、必要書類を整えてまず市役所へ。窓口ではペルフェクト（完璧！）とオホメの言葉を頂いて無事何の問題もなく受理され、晴れてカァディス市民となったのです。

そして、住民登録を受け付けた証明書を貰って国警分署へ。ここでも、指紋押捺をし

て手続きはスムーズに終り、これで来年暮れの再更新手続きまで安泰となりました。

この分では再更新もスムーズに出来る事でしょう。次は何年延長できるかな？

EXCMO. AYUNTAMIENTO DE CÁDIZ

PADRON MUNICIPAL VOLANTE DE EMPADRONAMIENTO FAMILIAR N.E.038234

En el Padrón Municipal de este Municipio aparecen, en el día de la fecha y en la hoja que se indica, las inscripciones cuyos datos se recogen en este volante.

DATOS DEL PADRON MUNICIPAL  
Entidad Colectiva: CADIZ Entidad Singular: CADIZ  
Distrito: 10 Seccion: 007 Hoja de Inscripcion: 1514

DATOS DE LA VIVIENDA  
Tipo de Via: PASEO Nombre de Via: MARITIMO  
Numero: 008 Lt. Bloque: Portal: Escal: Piso: 10 Puerta: D

DATOS DE INSCRIPCIONES

Ord	Nombre y Apellidos	Fecha Nac.	Lugar de Nacimiento	Sexo	Documento Identd.	País de Nacionalidad
001	ROKKO HAYASHI	08/10/1940	JAPON	HOMBRE	TARJT. X4769549 Q	JAPON
Alta Extranjero 11/11/2004 Procedencia: JAPON						
002	NORIKO HAYASHI	07/03/1948	JAPON	MUJER	TARJT. X4769578 E	JAPON
Alta Extranjero 11/11/2004 Procedencia: JAPON						

EFFECTO PARA EL QUE SE EXPIDE  
ASISTENCIA SANITARIA

Num. de Personas que comprende este Volante: 2

En Cádiz, a 15 de NOVIEMBRE de 2.004

これが住民票(写)。一番頭にパドロン(PADRON)という綴りが見えますね。

ところで、住民登録を終えた窓口で、住民税は何時何処で納めるのでしょうか？ と聞

くと、ナイ、と言うのです。エッ、税金ナイ？本当にナイの??

あなた、不動産持ってますか？ イイエ、借家です。宜しい、自動車持ってますか？

イイエ、ありません。では職業は？ ソレもアリマセン。スペインでの収入は？  
勿論アリマセン。だから、税金ないんですよ。そして住民票(写)発行手数料もナシ。

ウン、いいとこだナー。じゃあ、せいぜい間接税を払うべく努力いたしましょう。

でも、コレって限りなく生活保護の対象に近いんでしょうかネー？ \*\*\*

---

## 「オリーブ油生食」の巻

日本ではオリーブ油高いですね。スペインであんな値段で売ろうものなら反乱でもお  
きかねません。

何しろ揚げ物から炒め物からサラダからパンを食べるのまでなんでもかんでもオリー  
ブ油です。前にスーパーのオリーブ油コーナーを写真で紹介したことがありますね。

どのスーパーでもワイン・コーナーにも負けないぐらいデカイ面をしています。  
私達は日本にいたときも少しはオリーブ油に親しんでいましたが、パスタに絡ませる  
とか、そのほか使っても風味付け程度に留まっていた。

スペインに住むようになってからは一変して、台所には油はオリーブ油のみとなりま  
した。揚げ物は勿論、炒める、焼く、絡ませる、とおよそ油を使う料理は全てオリー  
ブ油で片付けるようになったのです。

理由は当然、安いから、に尽きます。安いといってもピンからキリまで、値段と質の  
幅はとても広く、前に紹介したように5リットル入りの大型プラ容器から木箱入りガ  
ラス瓶の特級品までコレでもかというくらいの選択肢が有ります。

その他ヒラソール(girasol)といってオリーブ油より一段安いヒマワリの油も数多く  
出回っていますが、私達はまだ使ったことがありません

私達が常用しているオリーブ油は750ml、3.7ユーロというもので、やや上等  
の中級品というところでしょうか。私達は、揚げ物はたまにソーハのパンの切れ端を  
揚げてビーノのアテにする以外殆ど食べないので、調理に使う量は知れたものです。

この瓶を2ヶ月に3本程度しか使っていません。

そんな私達が最近凝っているのは、オリーブ油生食です。前からテレビなどで時々オ  
リーブ油を小さなグラスで飲んでいるのを見ていました。そのときはウーっと思っ  
ていました。今でも飲もうとまでは思いませんが、何かにかけて食べる事には何の抵  
抗もありません。

生食の時は上記の調理用に使っているものより一段上質のもの、そしていろいろな風  
味付けをしたものなどを愛用しています。例えば写真のようなものです。



前にもオリーブ油の写真は色がうまく出ないと言いましたが、やはり今回もそうでした。実際は綺麗な薄いグリーンですがこんな風に茶色っぽく写ってしまいます。左からアルバーカ(バジル)、アホ(ニンニク)、チレ(唐辛子)、そして右端はトルファ(トリュフ)の風味をつけたもの。

この他、シンプルな何も味をつけてない上質の生食用オリーブ油やリモン(レモン)、カネーラ(シナモン)、ピミエンタ(胡椒)、トミーヨ(タイム)、オレガノ(オレガノ)、ロメロ(ローズマリー)など色々な風味付けをしたものが無数に出回っています。

素材は勿論ビルヘン・エクストラ(エキストラ・バージン・オイル)。あまりいっぺんに買い込むと酸化してしまいそうで、一本空いたら次を買うという事になっていますから、まだまだとても全種目制覇は果たしていません。



コレをどうするかというと、マ、食べ方はお好み次第。バルなんかではテーブルやカウンターには必ずオリーブ油、酢、塩、胡椒の四点セットが置いてあり自分で自由に味付けできるようになっています。一般的なバルで使っているのはこの写真のものより

大分格下のもので、風味付けをしてないものが主流でしょう。

私達の食べ方はこれらのオリーブ油とごく少量の醤油を混ぜる事。コレがミソです。

大化けに化けます、スペインの人に醤油とのコンビの良さを教えてやりたい。

後は胡椒や各種香辛料をお好みのまま。しかし、例えばココにならんだような、既に風味をつけたものは、これをかけまわした後醤油数滴加えるだけで充分。あっと驚く

美味しさです。

サラダは勿論、蒸し野菜でも、焼き野菜でも、野菜炒めでも、野菜のたぐいは何でもOK。そして極めつけはパン。例のソーハのパン覚えてますね？ コレとの相性も

ということなし。勿論ごく普通のバラ(バケット)でも悪くありません。私達はいまや

バターの美味しさを忘れかけています。

コレステロールが心配な場合は、試してみませんか？ 最初は風味をつけたものではなく、シンプルな上質のエキストラ・バージンが無難でしょう。

この美味しさを、文句なしに旨いと思える味覚をお持ちの方はスペイン暮らしへの順応性アリと考えていいのではないかと思います。冬は鍋物に熱燗でという向きにはどう

うか？ 確信はありません。 日本風のこまやかな味ではないことは確かです。

RもNも長年ハイ・コレステロールには悩まされてきましたが、多分、恐らく、きっと、いま検査をすれば必ず低い数値が出ると信じています。検査をして結果を知りたい

いは決して思いませんがネ。\*\*\*

\*\*\*\*\*

---

## 「客船揃い踏み」の巻

部屋の前を客船が通ります。勿論、通るのは客船だけではなくコンテナ船も軍艦も

漁船もRO-RO船も通りますが絵になるのはやはり客船や帆船ですね。

あ、RO-RO(ローロー)船というのはROLL-ON, ROLL-OFFの略号で転がって乗って転がって下りる、即ちトレーラー等の大型車両でも車ごとそのまま船に乗り込めるように頑丈なランプ(傾斜路)を備えた船です。

なーんだカー・フェリーじゃないかと思うでしょうが、そうカー・フェリーもRO-

ROであることは確かです。ただ、決定的に違うのはその航行区域です。

カー・フェリーはその性格から通常沿岸か近海仕様になっているものが殆どですが、RO-RO船と呼ばれるものの大部分は外洋仕様です。

自動車専用船もRO-ROの一種ですが、コレはRO-RO船とは言わずカー・キャリア(PCC)または自動車専用船と呼ぶのが普通です。

RO-RO船というと大概頑丈な船体で、ランプも超重量級。例えば大型建設機械などでも難なく自走させて積み込めるようになっています。当然甲板の強度もそれに耐えられるよう強力に出来ています。この自走させて積み込めるというのがRO-RO船最大のメリットでしょう。仕事がスピーディです。

脱線してしまいました、客船の話でした。

ある朝、夜明け前に目がさめて外を見ると二隻の客船が相次いで入港針路に入ろうとしているのが見えました。丁度カスティーヨ・サン・セバスチャンという海に突き出た古城の灯台を回り込もうとしているところでした。次の写真がそれです。

右端に明るく光っているのがサン・セバスチャンの灯台、そのすぐ左が第一のやや小型の客船、中央より少し左の明るいのが第二の大型の客船です。

夜明けを待っているのでしょうかデッド・スロー(極微速)で入港針路に向っています。

へえー、二隻同時に入港かぁ、とっていました。



朝食を食べながら海を見ているとマタマタ客船がきました。三隻目です。



コレが夜明け後のサン・セバスチャン灯台です。客船の左手前に白波が見えますね。

灯台のある城址の先には暗礁が延びていて、凧の日もソコで波が砕けるのです。  
クルーズ客船は夜明けに入港して夕方暮れかかる頃に出港するのが普通のようなのです。

日中、船客はそれぞれバスで近隣の観光地へエクスカージョンに出かけたり、その港の街を散歩したりするのでしょう。

実は客船というのにはあまり興味がないのです。どうせ自分のフトコロでは乗れっこない事が分かってますからね。間違えてそんなお金が転がり込んだらキャナル・ボートをチャーターして手前船頭で欧州大陸の河川運河水面のクルーズをします。

まあ、それはともかく、三隻も客船が揃うのはカアディスでもそうあることではないだろう、コレはやはり行って見なくては、とウチを飛び出しました。上の写真を撮って、すぐウチを出ると港内に入った船が着岸作業をしている所に丁度間に合います。住民登録に行ったサン・ファン・デ・ディオス広場から見ると一番近い岸壁についた船が広場を塞ぐように立ちはだかっていました。



椰子の木の向こうはビルではなく客船の一部分です。遠近法を考えに入れなくても、その圧倒的な大きさが分かりますね。



角度を変えるとこうなります。QM2とはスケールが違いますが、これもカナリ！



驚いた事にこの一番大きい客船はNYKのマークをつけていました右上隅に赤バンド  
が二本見えてますね。

この写真を見て何か感じませんか？ 各客室の言わばベランダ風のデッキ部分が部屋  
ごとに壁で仕切られてます。何となくセコイと思いませんか？

コレじゃ部屋の中に居たら仕切り壁で仕切られた海しか見えないじゃないですか。  
勿論、部屋から出て手摺に寄れば180度の海が広がりますが、一旦洋上へ出たら風  
も吹くし雨だって降るのです。時化ればしぶきも飛んでくる。そうなれば部屋の中か  
ら壁に仕切られた海を見るだけ。馬鹿馬鹿しいじゃありませんか。

そして上のほうの客室と下のほうでは歴然とした差があるのも分かりますね。ソレは  
次の写真でもっとハッキリします。



白壁部分の最上階では、この写真の左端から右端までを二部屋で占めています。

次の階は同じ長さを7室、さらにその下二層は10室です。

この歴然たる差は当然乗船料金の差ですが、この写真には写っていないもっと下層の  
部屋との開きはどのくらいあるのでしょうか。

客船に乗ってクルーズをするというのは富のアカシでしょうが、乗船した後、更にまたチョット金持ちと大金持ちと大富豪の差に直面するわけ。ソレは映画タイタニックでもご覧の通り。一億総中流の日本ではあまりあからさまには思い知らされる事のない貧富の差。

この船にもあるのかどうか知りませんが、地中海クルーズの船などにはインテリアといって外に面していない部屋、すなわち海はぜんぜん見えない部屋というのさえあるのです。当然一番安い部屋です。

部屋は寝に帰るだけ、と割り切れればいいようなものではありますけどね。



三隻の客船揃い踏み。まあ、客船はこうして外から眺めている位がちょうどイイカ。ところで、私達の部屋の前を通る船は世界中の色々な港から来て又世界中へ散って行くわけですが、一番近くを通るのは地中海方面からジブラルタル海峡を通過してカアデイスに入港する船またはその逆のコースです。次にもう少し沖を通るのはカナリー諸島やアフリカ諸国、南米の各国などの行き来、もっと沖を通る船はマデイラやアゾレ

ス方面を経て中米・北米各国やカリブ海諸国とを結ぶ航路でしょう。  
更に一番遠いのはカアデイスを出港してからイベリア半島の南西端サン・ヴィセンテ岬 (Cabo de São Vicente) を掠めて大西洋を横断する大圏コースを採用する船、またはイングリッシュ・チャンネル方面に向う船。これらのコースをとる船はサン・セバスチアンの灯台を過ぎるとすぐ後ろ姿になってしまいます。  
次の写真の船はジブラルタル海峡から北上してきた船です。



口径8センチか10センチの25倍双眼鏡をほしいんですが、今のところはこの10倍防振双眼鏡でガマンです。この双眼鏡、手持ちで長い間覗いていても手ブレを防いでくれるスグレもの、長年愛用しています。  
サテ今週のメは沈む夕日に向って出港して行く客船のシルエット。太陽が輝きすぎてよく見えませんが、太陽を手でふさいでその右下をよくご覧下さい。





この船は多分カナリー行きでしょう。

客船の出港は夕刻というのは通例ですが、それにしてもいい時間に出てゆきますね。こんなシーンを見ると、また乗りたい気持ちにならないでもないですが、まあ、ヤメとしましょう。どうせこんなベタ風の海なんかほんのイットキだし、こうしてシブキのかからないところで晩酌やってる方がずっとイイに決まっていますからネ。\*\*\*

---